

# 第1章 大船渡市の概況と東日本大震災における被害状況

丸山 真央

## 1 大船渡市の概況

### 1-1 地勢

岩手県大船渡市は岩手県沿岸南部に位置する。陸前高田市と気仙郡住田町とともに気仙地方と呼ばれることもある。大船渡市はその気仙地方の中心都市である。なお、かつて気仙郡三陸町があったが、2001年11月に旧大船渡市に編入合併された（図1-1）。

大船渡市は太平洋に面しており、市街地は、南東から北に深く切れ込んだ大船渡湾に沿って形成されている。市の南部と旧三陸町地域は、岩手県三陸沿岸南部に典型的なリアス式海岸の特徴がみられる。入り組んだ海岸の背後に山がそそり立ち、湾奥のわずかな平地に漁港と集落が点在するという地形である。北上山地の山裾が海岸線まで迫り、平地はきわめて少ない。市の北西部は北上山地の一部であり、中山間地域が広がる。気候は温暖であり、冬季でも積雪は多くない。

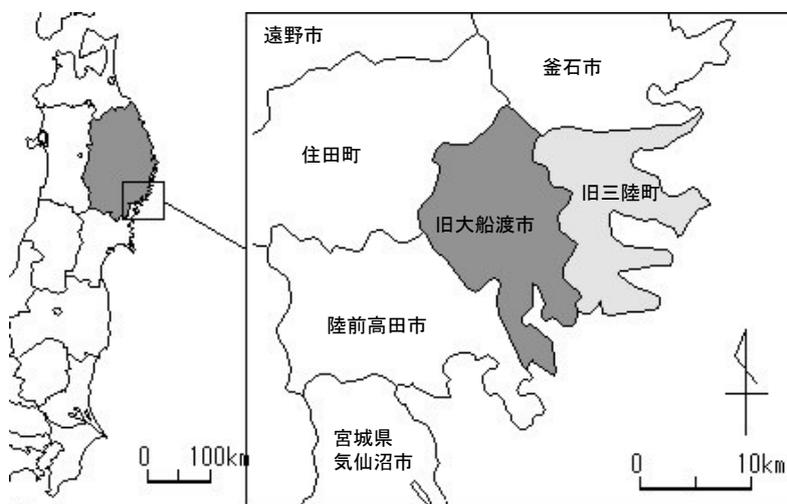


図1-1 大船渡市（旧大船渡市、旧三陸町）の位置

2001年に施行された旧大船渡市と旧三陸町の合併については第5章で述べるが、ここでは、それ以前の1950年代の旧大船渡市、旧三陸町の成立について一言しておく。

旧大船渡市は1952年に2町5村が合併して成立した。これに先立つ1950年、国土総合開発法に基づいて「北上特定総合開発計画」が策定され、「北上川南部特定開発地域」が指定された。この国家的開発事業の受け皿として、大船渡湾周辺の2町5村（盛町、大船渡町、末崎村、日頃市村、立根村、猪川村、赤崎村）では合併による工業都市化を進めようとの機運が盛り上がり、1952年にこの2町5村が合併して旧大船渡市が誕生した（大船渡市史編集委員会編 1980 :

326-39；金野監修 2002：720-4)。

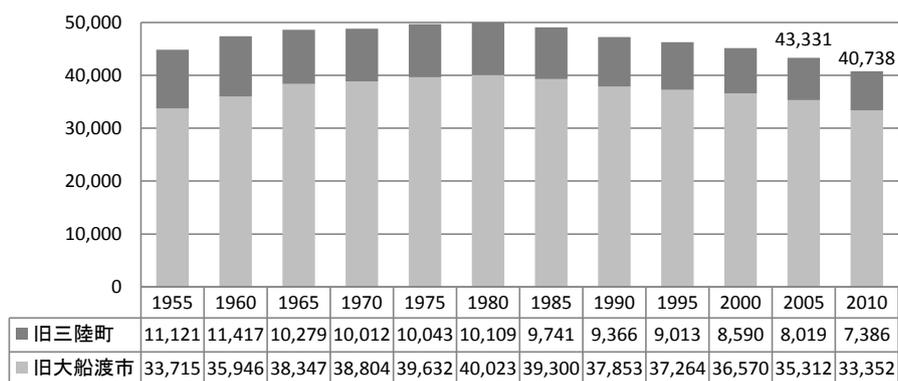
旧三陸町は、1956年に、「昭和の大合併」のなかで、綾里、越喜来、吉浜の3村が合併して三陸村として成立した。三陸村は1967年に町制を施行して、三陸町となった(三陸町史編集委員会編1992：第12～16章)。

なお、旧大船渡市、旧三陸町地域のいずれにおいて、1950年代の合併以前の旧町村という地域的まとまりは、現大船渡市では「地区」と呼ばれている(第6章で後述)。

## 1-2 人口

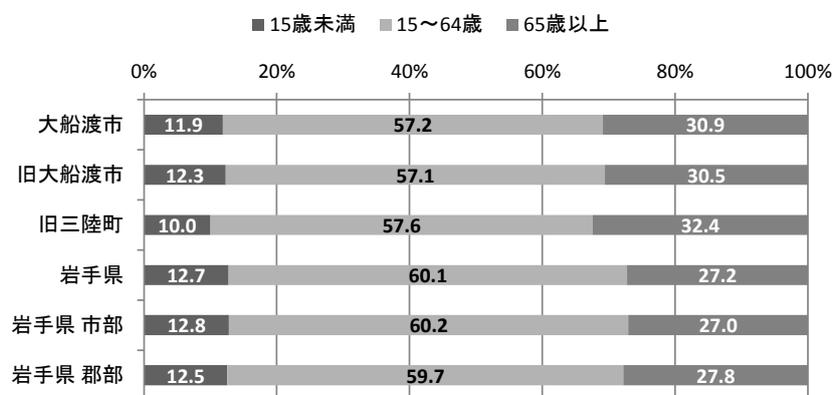
大船渡市の人口(2010年)は4万738人であり、旧大船渡市地域は3万3352人、旧三陸町地域は7386人である(国勢調査)。旧大船渡市は、人口のピークは1980年の約4万人で、その後減少傾向が続いてきた。旧三陸町は、1960年の約1万1千人が最も多く、その後はほぼ一貫して減少してきた(図1-2)。

旧大船渡市、旧三陸町のいずれも、人口減少に加えて、高齢化が進んでいる。大船渡市の高齢化率(2010年)は30.9%であり、岩手県全体、市部の平均より若干高い。旧大船渡市は30.5%、旧三陸町32.4%である。旧三陸町は岩手県の郡部平均より5ポイント近く高い(図1-3)。



注：国勢調査各年版から作成。合併後については、大船渡市の人口を付した。

図1-2 大船渡市(旧大船渡市・旧三陸町)の人口の推移



注：国勢調査から作成。

図1-3 年齢別の人口構成(2010年)

### 1-3 産業構造

大船渡市の眼前に広がる太平洋は、暖流と寒流の交流海域にあたり、世界有数の豊饒な水産資源を産する三陸漁場となっている。大船渡市はこの地理的条件を生かして、まずもって漁業が地域産業の柱となっている。また水産加工をはじめ食品加工業も発展してきており、漁業とともに産業複合体を形成している。

漁業は個人の漁業者によって営まれるのが大半であるが、企業や組合による経営もある。事業所で多いのは、サービス業（卸・小売、宿泊・飲食、医療・福祉等）のほか、建設業、食品製造業である（表1-1）。

表1-1 産業別にみた大船渡市の事業所数と従業者（2009年）

	事業所数	従業者数
農林業	19 (0.7%)	218 (1.1%)
漁業	14 (0.5%)	301 (1.5%)
鉱業	4 (0.1%)	104 (0.5%)
建設業	252 (9.2%)	1,814 (9.3%)
食料品製造業	81 (3.0%)	1,785 (9.1%)
繊維工業	14 (0.5%)	229 (1.2%)
木材・木製品製造業(家具を除く)	15 (0.5%)	274 (1.4%)
窯業・土石製品製造業	7 (0.3%)	326 (1.7%)
その他の製造業	82 (3.0%)	786 (4.0%)
運輸・郵便業	76 (2.8%)	1,053 (5.4%)
卸・小売業	785 (28.7%)	4,238 (21.6%)
宿泊・飲食サービス業	280 (10.2%)	1,344 (6.9%)
医療・福祉	145 (5.3%)	2,021 (10.3%)
その他のサービス業	927 (33.9%)	4,337 (22.2%)
公務(他に分類されるものを除く)	33 (1.2%)	750 (3.8%)
全産業	2,734 (100.0%)	19,580 (100.0%)

注：経済センサス基礎調査から作成。

旧大船渡市では、セメント製造業も主産業のひとつである。これは背後の北上山地に産する石灰岩を利用した資源産業であり、昭和戦前から産業化され、現在は旧市内赤崎町に太平洋セメント大船渡工場が立地しているほか、関連産業・関連事業所が市内各地に立地している。

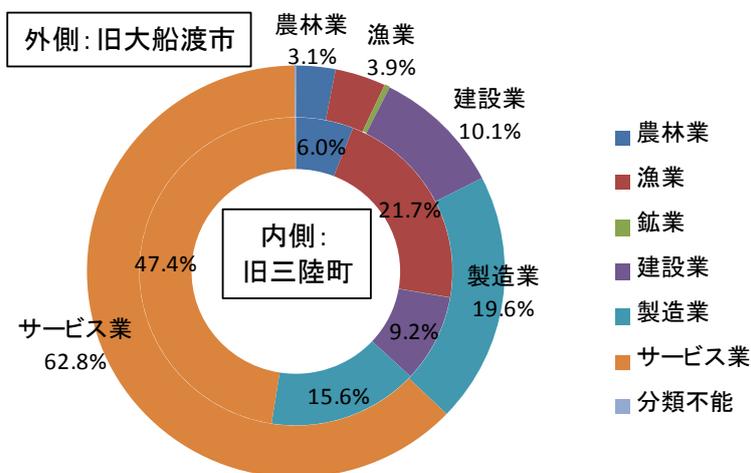
旧三陸町地域についていえば、漁業が圧倒的な主産業といえ、農林畜産業はあまり目立たない。とくに農業は自給的な位置を脱するほどにはなっていない。

産業大分類別の就業人口は、大船渡市全体でみると、県平均より構成比が大きいのが、漁業、鉱業、建設業、製造業などである。就業人口の構成でいうと、旧三陸町は漁業をはじめ第一次産業が主産業である。目立った第二次産業や第三次産業には乏しい（表1-2、図1-4）。

表 1 - 2 産業大分類別にみた大船渡市の就業人口 (2010 年)

	大船渡市	旧大船渡市	旧三陸町	参考:岩手県
総数	18,663 (100.0%)	15,404 (100.0%)	3,259 (100.0%)	631,303 (100.0%)
A 農業, 林業	668 (3.6%)	473 (3.1%)	195 (6.0%)	68,988 (10.9%)
うち農業	570 (3.1%)	398 (2.6%)	172 (5.3%)	65,744 (10.4%)
B 漁業	1,314 (7.0%)	607 (3.9%)	707 (21.7%)	7,015 (1.1%)
C 鉱業, 採石業, 砂利採取業	67 (0.4%)	66 (0.4%)	1 (0.0%)	566 (0.1%)
D 建設業	1,854 (9.9%)	1,555 (10.1%)	299 (9.2%)	55,170 (8.7%)
E 製造業	3,528 (18.9%)	3,019 (19.6%)	509 (15.6%)	97,743 (15.5%)
F 電気・ガス・熱供給・水道業	70 (0.4%)	58 (0.4%)	12 (0.4%)	2,985 (0.5%)
G 情報通信業	83 (0.4%)	75 (0.5%)	8 (0.2%)	6,608 (1.0%)
H 運輸業, 郵便業	858 (4.6%)	764 (5.0%)	94 (2.9%)	31,434 (5.0%)
I 卸売業, 小売業	2,989 (16.0%)	2,627 (17.1%)	362 (11.1%)	100,515 (15.9%)
J 金融業, 保険業	285 (1.5%)	256 (1.7%)	29 (0.9%)	12,396 (2.0%)
K 不動産業, 物品賃貸業	136 (0.7%)	121 (0.8%)	15 (0.5%)	6,657 (1.1%)
L 学術研究, 専門・技術サービス業	275 (1.5%)	242 (1.6%)	33 (1.0%)	12,222 (1.9%)
M 宿泊業, 飲食サービス業	887 (4.8%)	758 (4.9%)	129 (4.0%)	34,063 (5.4%)
N 生活関連サービス業, 娯楽業	728 (3.9%)	640 (4.2%)	88 (2.7%)	23,291 (3.7%)
O 教育, 学習支援業	890 (4.8%)	785 (5.1%)	105 (3.2%)	27,423 (4.3%)
P 医療, 福祉	2,065 (11.1%)	1,721 (11.2%)	344 (10.6%)	71,354 (11.3%)
Q 複合サービス事業	354 (1.9%)	244 (1.6%)	110 (3.4%)	7,537 (1.2%)
R サービス業(他に分類されないもの)	869 (4.7%)	752 (4.9%)	117 (3.6%)	31,464 (5.0%)
S 公務(他に分類されるものを除く)	725 (3.9%)	625 (4.1%)	100 (3.1%)	25,218 (4.0%)
T 分類不能の産業	18 (0.1%)	16 (0.1%)	2 (0.1%)	8,654 (1.4%)
(再掲)第1次産業	1,982 (10.6%)	1,080 (7.0%)	902 (27.7%)	76,003 (12.0%)
(再掲)第2次産業	5,449 (29.2%)	4,640 (30.1%)	809 (24.8%)	153,479 (24.3%)
(再掲)第3次産業	11,214 (60.1%)	9,668 (62.8%)	1,546 (47.4%)	393,167 (62.3%)

注：国勢調査から作成。



注：国勢調査から作成。

図 1 - 4 旧大船渡市と旧三陸町の就業人口構成 (2010 年)

## 2 東日本大震災における大船渡市の被害状況

### 2-1 市全体の被害状況

2011 年 3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震によって、大船渡市では震度 6 弱の地震を観測した<sup>1</sup>。またこれに伴う平成三陸大津波では、大船渡市では最大波 11.8 メートルの津波

<sup>1</sup> 以下、被害状況は大船渡市のまとめ（「東日本大震災での被害状況等について（2013 年 9 月

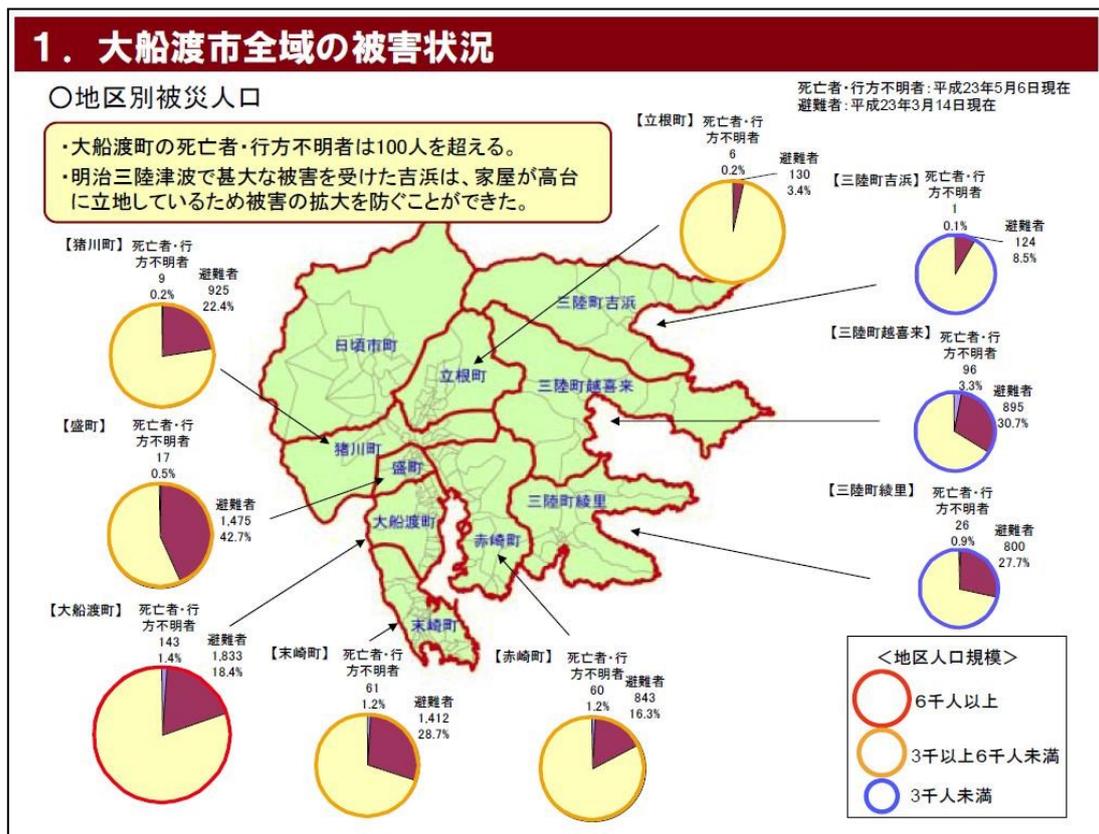
を観測した（気象庁現地調査）。

この津波によって、大船渡市では死亡 340 人、行方不明 79 人の人的被害が発生した。また建物被害は 5556 世帯（全壊 2789 世帯）にのぼり、物的被害は総額約 1077 億円と推計されている。発災直後の避難所への避難者は最大 8737 人にのぼった（2011 年 3 月 15 日時点）。

## 2-2 地区別の被害状況

大船渡市内の被害状況は、地区によって大きく異なる。リアス式海岸の複雑な地形、集落や家屋の立地状況などによって、人的被害も建物被害も、地区や集落で大きく異なるものとなった（図 1-5）。

旧三陸町地域では、綾里、越喜来、吉浜の各地区で大きな被害が発生したが、やはり地区ごとによって状況はかなり異なる。越喜来地区では地区中心部をはじめとして死亡者・行方不明者が 96 人を数えた。綾里地区でも死亡者・行方不明者計 26 人の被害を出した。被災家屋も、越喜来地区では全体で 3 分の 1 以上、綾里地区でも 2 割以上にのぼった。他方、吉浜地区では、人的被害は行方不明者 1 人、被災家屋もわずかにとどまった。これは、同地区で、「明治」「昭和」の三陸大津波のあとに高台移転が進められたことが奏功したためといわれている（旧三陸町地域の地区ごとの被害状況は第 6 章を参照）。



注：大船渡市第2回復興計画策定委員会（2011年6月2日）の資料から。

図 1-5 東日本大震災における大船渡市の地区別の被災人口

30日現在)」による。

### 2-3 震災後の人口変化

震災の前後で、大船渡市の人口と世帯数は大きく変化している。2010年9月末時点では4万896人、1万4722世帯（1世帯あたり2.78人）だったが、震災から約半年後の2011年9月末時点では3万9461人（2010年9月末より1435人減）、1万4412世帯（同310世帯減）（1世帯あたり2.74人）に減った。2013年9月末時点では3万9174人（同1722人減）、1万4793世帯（同71世帯増）（1世帯あたり2.65人）であり、2014年1月末時点では3万9118人（同1778人減）、1万4810世帯（同88世帯増）（1世帯あたり2.64人）となっている。人口の減少は、落ち着いたもののまだ続いているとみられる。また1世帯あたりの人口の減少が顕著である（いずれも住民基本台帳による）。

旧三陸町地域については、震災直前の2011年2月末時点での人口は7263人、2450世帯だったが、震災から1年後の2012年3月末時点では、6763人、2265世帯となっており、人口は500人減、世帯数は185世帯減である（同前）。地区や行政区によって減少率はかなり異なる。地区別にみると、減少が最も著しいのは、被害が旧町内で最も大きかった越喜来地区であり、2011年2月末と2012年3月末を比べると310人減、149世帯減である。次いで綾里地区は161人減、27世帯減であり、被害が最も小さかった吉浜地区でも29人減、9世帯減となっている（詳しくは第6章を参照）。

#### 文献

金野静一監修，2002，『大船渡市史 第6巻 通史編』大船渡市。

大船渡市史編集委員会編，1980，『大船渡市史 第2巻 沿革編』大船渡市。

三陸町史編集委員会編，1992，『三陸町史 第2巻 歴史編』三陸町史刊行委員会。